

第1回運営委員会 議事録

日時：2017年7月14日（金）19：00～（バザー参加団体打ち合わせ終了 21：30）

場所：文京シビックセンター4階和室

出席者：（団体会員）大塚小、駕籠町、窪町、小日向台町（第一・第二）、駒本、汐見、水道、千石（第一・第二）、第三中、白山東、久堅、本駒込、茗台、向丘、目白台、目白台第二、柳町第二、OB 父母のつどい、児童館分会

（役員）越野、山口、辻本、森部、濱田、國本、福田、下村、伊藤

司会：越野（役員）

【配布資料】

- ・議事次第
- ・区連協の活動、役割について
- ・資料1：過去の実績と現状（活動とその成果）
- ・資料2：育成室増設計画待機児童／育成室定員について
- ・資料3：繰越金の説明
- ・資料4：区連協バザーのはじまり／収益の取り扱いの変遷

【締め切り・今後のスケジュール】

- ・7月31日（木） 区への全体要望提出（各団体→区連協窓口）
- ・8月24日（木）19時～ 第1回バザー実行委員会
- ・10月22日（日）10時～ 第2回運営委員会&区との意見交換会
- ・9月 区連協ニュース発行

【議題項目】

0. 役員・参加者の紹介

- ・役員紹介

会長からのメッセージ：

区連協は子どもたちのための活動。子どもたちが育成室で楽しく、安心安全に過ごせるよう、自分の子供とその仲間の環境を作るため一緒にやっていきたい。父母会の集団であって、役員も一保護者、旗振り役であり、役員で勝手に方向性を決めたりすることはできない。主体は父母会であり、皆でつくっていく。

- ・参加者（参加団体）の紹介

父母会運営の思い、キャンプについての話題など各父母会より情報共有。

LINE を使ったいじめについての情報共有あり。

1. 区連協の現状

- 区連協の活動、役割について
- 過去の実績と現状（活動と成果の報告）

（役員 下村）

過去の実績：資料1を参照

当時も待機あり、増設運動をしてきた。

行政がそれにこたえてくれて、毎年のように計画にのっとって増設している。

現状は37 育成室のうち17 育成室が定員オーバーしている。

現在の活動は今の子どもたちが親になったときに繋がる。

（役員 山口）

保育園や小学校と違い、放っておいて公設の育成室事業は維持できない現実がある。

近隣各区はほぼ全児童と一体化され、プール監視員レベルのところも。文京区も保護者が預けさえすれば満足となってしまうえばその要望に応じて行政は計画策定する。

放課後全児童事業の導入により、子どもの居場所は学校に集約され、児童館の在り方を見直すということも上がっている。児童館併設の育成室が民営になる可能性もあり。

1 育成室が単独でもってきた要望と区連協がもってきた要望は分けて扱われると課長が明言されている。

区連協として、子どものために要望をしっかりと行政に伝えていかなければならない。

（役員 越野）

平成31年までに全児童対策事業が全校で行われる。そうすると子どもたちの居場所は学校にあるので、児童館のあり方を変えるという方針になる。

児童館内に増設も考えられている。新設の育成室は基本民営。

（窪町）

公設公営、公設民営、民営、何がどう違うのか？

（役員 山口）

・公設民営：

区が募集してプロポーザル入札で事業者を決める。

プロポーザルで事業者がどういう理念をもってやっているか点数化できる。

経費効率が高いとその分の点数がかさみ、保育の質が後回しになった経緯があり、経費効率の係数をさげるよう要望した。

事業者の体力、雇用の安定性の問題がある。

区の基準、会社の基準があり。（ダブルスタンダード）

・公設公営：

区の保育指針にのっとって運営されている。
職員は公務員であるため、雇用が安定しており継続的な保育が可能。

(千石)

保護者は「お客様」。なかなか父母と対等な関係が築けない。

2. 現加盟団体の継続、新設・未加盟父母会の加盟のための具体的な方策

● 意見交換

(役員 越野)

現在団体会費は1,000円

運動会やバザーの位置づけ：子どもも大人も楽しむ場を提供するとともに、行政や地域へのアピールの場でもある。加盟数が多いだけで、パワーになる。

運動会・バザーは強制しているものではない。

増設はすすんでいるが、新設・未加盟の父母会が加盟しない場合、加盟率がさがる。

1つの育成室が2つの育成室に分かれる際に新しい育成室のサポートをお願いしたい。

誠之育成室の例)

一保護者から父母会立ち上げの相談あり。

区連協運動会・向丘のキャンプに誘い、合同で活動。

人が集まってからの方が父母会は作りやすいようで、一昨日、父母会がつくられた。

(汐見)

古くからある育成室（千駄木とか）が加盟していない理由はわからない。

新設のところにどう働きかけをするのか？

脱退した育成室はなぜ脱退したのか？なぜ加盟しないのか？

経緯はわからないが、過去の記録をもとに分析が必要。

(役員 越野)

印刷物を加盟していない父母会にも配布するなどし、情報を広げていきたい。

(向丘)

育成室には3年しか通わないため、継続性を考えると誰が見ても納得する資料にする必要がある。人のつながりだけでなく、区連協の活動がどれだけ効果を生んだのか、客観的に見える形の資料にすべき。

(汐見)

区連協に加盟しなくてもメリットを得ている。
ばからしいではないかという声もある。加盟のメリットが必要。

(久堅)

ハードルを下げてよいのでは？
Face to Face を否定はしないが、ネットを使い、気軽に意見交換ができればよい。
時間的コストをさげる方法がよいと思う。

(千石)

コストを下げてきたのが4年ぐらい前。コストを下げててもバリューは上がらない。
バリューを上げるのは難しい。
情報発信/共有をしてバリューをつけることで集まるのでは？

(目白台第二)

例えば区として新たな取り組みを実施する際に、区連協加盟育成から優先的にやってもらうなどすれば変わってくるのでは？

(柳町第二)

最初に入るものだと思ってもらおう。(テクとして)

(茗台)

以前は水道育成室にいた。
父母会の活動はできるが、区連協の活動が負担であったという声があった。
区連協の活動負担が脱退の選択になる。

(本駒込)

ホームページでの情報公開は知りたいと思う人がいつでも情報を取得できるため、
広めやすくなった。ノウハウの蓄積が必要。情報共有がなければ、何をしているかわからない。

3. 子ども子育て会議

- 育成室増設計画待機児童／育成室定員について

(資料作成 役員：三井 ※山口代読)

① 子ども子育て会議とは

(資料3 P3)

区の子ども子育ての支援施策を話しあう場。

区連協は、区からの要請に基づき、団体推薦委員を1名送っており、子ども・子育て支援事業計画について会議の委員は意見を述べるができる。

この子ども・子育て支援事業計画には、文京区内で何人の児童が育成室を利用するかという推計されるニーズ量の算出と、そのニーズをいかに満たすかの確保方向（具体的には育成室の整備）が記載されている。

区連協は委員を通じて、この部分に意見し進捗を確認している。これも日々の父母会・区連協の活動の成果。

（資料3 P4）

現在動いている子ども・子育て支援事業計画は、H27年度からH31年度の計画。

昨年、本年は主にH27年3月に策定された事業計画について、来年度以降の進捗管理を中心に、議論・確認。

今年の実人口から、来年以降の人口を推計し、その推計人口から、将来の利用予測人口、ニーズの量を予測。その量に対して、H31年度までいかにサービスを提供できるかの計画の進捗を確認。

H32年度以降の計画はしかるべき時期に策定をすることとなっている。

（資料3 P5）

今年の子推計は

5,332人（低学年人口予測）×30.2%（昨年度育成室在籍率+待機児童率）＝
1,610人分のニーズとして計画。

文京区は、昨年度この1,610人のニーズ量を充足させるために、今年度頭までに設備の整備を実施。本年も、このニーズ率の算出、整備の進捗を会議で確認していく。

② 育成室増設（キャパシティ増加）の歴史／計画と待機児童

（資料3 P6）

H22年からH29年までの育成室増設の状況について確認。

区連協と行政の協働の結果、ここ3年で8室の育成室増設が実施。

待機児童を解消し、これからも増加見込みの児童をしっかりと育成室で保育していくためには、育成室の父母の声を区連協で束ねて区に届ける必要がある。

（資料3 P7）

育成室在籍・待機数推移のデータから、定員増加と育成室の整備を続けても、待機児童が出続けている状況。

③ 育成室定員の問題

（資料3 P8）

2015年4月に厚労省が出した指針では、一育成室の定員はおおむね40人以下とするとされています。

国からの補助金は定員数によって異なり、適正規模である「36人～45人」を基準として設定。45人以上規模になると区が受け取れる補助金は減額する。

(資料3 P9)

「おおむね 40 人以下」という国の運営指針に対し、15%以上多い 46 人以上在籍の育成室は本年も 4 割以上存在。安全の観点からも国の運営指針に則った定員設定ができるように区に働きかけていく。

●意見交換

(駒本)

児童数が増え小学校の教室が足りなくなり、学校内育成がどうなるか危機感を感じている人もいます。

(窪町)

公設民営を作る場所がない、小学校の教室がない、完全に民営になってくる。

育成室は 50%出席で 3 年間は身分が保証される。

民間になるとプロポーザル、経費も含めて総合的に判断され、運営が不安定になる。

保護者にこのようなことを案内できれば、区連協のメリットを感じるのでは？

(役員)

行政は、区民の要望を受けて初めて動くことができる側面がある。改悪とならないように、要望を出していく必要がある。その意味で、区への要望書に関して追加があればまだ間に合うので出してほしい。7 月末まで。

4. 2018 年度運営体制

● 輪番制について

今年 1 年は凍結、輪番制を導入しなくてもよいよう雰囲気作りから行う。

(汐見)

役員の仕事は多い、もっとスリム化を。

5. 予算 (繰越金)

● 繰越金の説明

繰越金が多いことの経緯説明

「従来、会費が 4,000 円、10,000 円の年度があった。行事を止め、単独会計だった行事の繰越金を本会計に繰り入れたことが繰越金肥大化の原因となっている。

お金の使いみちについては、みんなで考えていく。情報配布といった案も出ている。

7. その他 (議題 6 と順序入れ替え)

● 今後のスケジュール等

- ・要望書は7月末までに追加があれば提出を。
- ・区連協ニュースのネタ募集
- ・区連協連絡MLが届いているか？窓口の方への確認依頼

- 運動会参加について

(大塚小学校育成室)

現状、運動会不参加の希望が6割。

運動会参加については育成室内で議論するが、運動会不参加の可能性あり。

- 「ぶんこうけん」について

今年から「ぶんこうけん」を区連協主催の行事に戻したい。

運営は有志で行う。

「ぶんこうけん」を区連協主催行事にすることで、行政に対するアピールが変わる。子育てのほか学童保育についての理解を深め、他区の状況など学ぶ良い機会となる。保育園や幼稚園に案内を郵送したが有志開催のため配布してもらえなかった。

→審議未了、次回へ持ち越し

6. バザー開催について（議題7と順序入れ替え）

開催はCブロックのみ、開催日程は10月8日（日）

キッズバザーにしてはどうか？というご意見あり。

(作成：2017年度総務担当・伊藤／2017年度役員確認済／ML確認済)